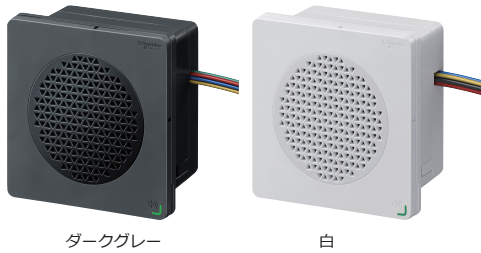


# XVSV9シリーズ



ダークグレー

白

## 特長

- DIN96規格取付け、コンパクトサイズで制御盤埋込に最適な音声合成警報器です。
- 前面パネル部は、ダークグレーと白の2色からお選びいただけます。
- 音量は最大97dBです。(前面操作で最小0dB～最大97dBを無段階で調節可能)
- ビット入力時には最大6チャンネル、バイナリ入力時には最大63チャンネルの音声アラームを外部接点で制御可能です。
- 音声編集ソフトPlaylist Builderに対応しているため、現場のパソコンを使用して、簡単に音声の入力や書き換えが行えます。また、同ソフトは操作モードの切り替えにも対応しており、減音動作を設定すると、簡単に外部接点制御で減音機能をご活用いただけます。
- 弊社の標準コメントライブラリーからコメントをお選びいただくと、無償にて本体に任意のコメントを録音した状態で納品させていただきます。
- 無電圧接点回路で、NPN/PNPオープンコレクタ接続に対応しており、PLCによる直接駆動が可能です。
- 耐振動性7.1Gをクリアしているので、建設機械車両などの過酷な条件でも安心してご採用いただけます。
- IEC/EN規格適合品です。EU諸国への輸出に際し、CEマーキングが必要な機器へも安心してご使用いただけます。
- 保護特性IP65 (埋込み・正方向取付け時)、IP20 (露出・正方向取付け時)です。

## 標準品仕様表

音声合成警報器	DIN96	NPN	定格電源電圧	使用電圧範囲	色調	型式(*1)	消費電力	信号線接点容量	音圧レベル	音声(*3)			製品質量	備考
										音声合成方式	コメント数/録音時間	インターフェイス		
音声合成警報器	DIN96	NPN	DC 12V~24V	DC 10~30V	ダークグレー	XVSV9BBN	3.8W	電源電圧以上 10mA以上	最大97dB (1m前方) (*2)	PCM	コメント数: 6種類 (バイナリ一時 63種類)	SDカード スロット (FAT32 2MB以上の SDカード 推奨) (*4) (*5)	0.27kg	CE適合 RoHS 対応品
					白	XVSV9BWN								
		PNP	AC 100V~230V	AC 90~264V	ダークグレー	XVSV9BBP	10W	16V以上 10mA以上					0.29kg	
					白	XVSV9MWN								

XVSV	DIN96	DC12~24V AC100~230V	IP (埋込 正方向取付け時) (*6) IP20 (露出 正方向取付け時)	定格出力 1W	定格時間 連続	使用温度範囲 -10℃~55℃	使用湿度範囲 35%~85%RH (結露なきこと)	材質/色調 前面パネル:熱可塑性エラストマー (ダークグレーまたは白) ボディ:ABS樹脂(ダークグレーまたは白) 取付金具:SPCC (三価クロムクロメートメッキ)	引出し線	
									長さ 900mm	線種 UL1007 AWG22×9本 信号線:UL1007 AWG22×7本 電源線:VFF0.75mm <sup>2</sup> AWG18×2本

## メモリー

	搭載数	メモリー容量	ビットレート	再生時間
XVSV	1個	16Mbit (増設不可)	64Kbit/s (*7)	256秒

## オプション



壁付用プレート  
XVSVZ016



SDカード  
0SD

オプション品の詳細はオプションページをご覧ください。(壁付用プレート: XVSVZ016 SDカード: 0SD) (\*1)本機のご注文時に、音声コメントの録音・編集を弊社へ委託される場合は、本体型式末尾に「F」を追加してご注文ください。例: 本体のみの場合(XVSV9BBN、XVSV9BWN、XVSV9BBP)、本体+録音の場合(XVSV9BBN-F、XVSV9BWN-F、XVSV9BBP-F)。(\*2)本カタログに記載の音圧は、1kHz正弦波で、本体前面の前方1mでの最大音圧です。録音内容、電圧変動、取付け状態により変化するため、表記の音圧より低くなる場合があります。(\*3)複数台を同時に使用される場合、同時に再生しても同期しません。(\*4)本機にはSDカードは付属しておりません。(\*5)SDカードを挿入したままでは音声再生できませんので、ご使用の際は必ずSDカードを抜いてください。(\*6)盤などに埋込取付け時、前面パネル前方からの特性を示します。(\*7)本製品のビットレートは変更できません。

# XVSV9シリーズ

## 制御モード

モード名	入力方式	最大出力チャンネル数(*8)	信号入力に対する動作	起動信号がワンショットの場合	起動信号を継続している場合	コメント再生中に起動信号を停止した場合	再生中に起動信号入力があった場合
A 基本モード					コメントを繰り返し再生します。		同時に複数の起動信号が入力された場合、若いチャンネル番号のコメントを再生します。
B ワンショットモード	ビット入力	6チャンネル	信号線入力に対応するチャンネル番号のコメントを再生します。		コメントを1回のみ再生して停止します。		再生中に入力される起動信号を全て記憶(最大47個)し、入力順にコメントを再生します。
C 後入力優先モード				コメントを1回のみ再生して停止します。	コメントを繰り返し再生します。	コメントの最後まで再生します。	再生中のコメントとは別のチャンネル番号の起動信号が入力された場合は、再生中のコメントを停止し、後から入力されたコメントを再生します。
D バイナリモード			バイナリコード表で選択した音声チャンネル番号を入力しますと、信号の組合せにより選択されたコメントを再生します。		コメントを1回のみ再生して停止します。		再生終了時点で起動信号があった場合、そのコメントを再生します。
E バイナリワンショットモード	バイナリ入力	63チャンネル	バイナリコード表で選択した音声チャンネル番号を入力しますと、信号の組合せにより選択されたコメントを再生します。		コメントを1回のみ再生して停止します。		再生中に入力される起動信号を全て記憶(最大23個)し、入力順にコメントを再生します。
F バイナリ後入力優先モード					コメントを繰り返し再生します。		再生中に起動信号が入力された場合、再生中のコメントを停止し、後から入力されたコメントを再生します。
G レベルモード	ビット入力	6チャンネル	信号線入力に対応するチャンネル番号のコメントを再生します。			信号が停止した時点で再生を停止します。	同時に複数の起動信号が入力された場合、若いチャンネル番号のコメントを再生します。
H バイナリレベルモード	バイナリ入力	63チャンネル	バイナリコード表で選択した音声チャンネル番号を入力しますと、信号の組合せにより選択されたコメントを再生します。				新たなコードに従ったコメントを即座に再生します。

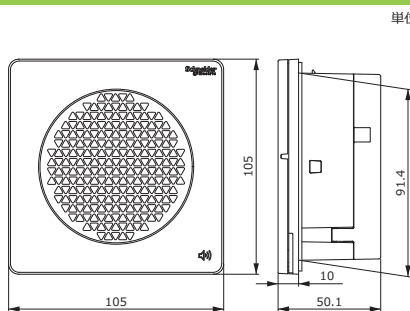
弊社で音声を収録せず本体のみを出荷する場合は、動作確認のために6CH全て音声で使用するモード4(全て報音を収録)となります。

## チャンネル動作モード

チャンネル動作は、減音や停止信号を混ぜた4パターンから選べます。減音信号：信号入力時のみ音量を下げる機能です。-5~-40dBの範囲で、予め減音レベルを設定できます。停止信号：信号を入力すると、再生途中でも、即座に再生を停止します。

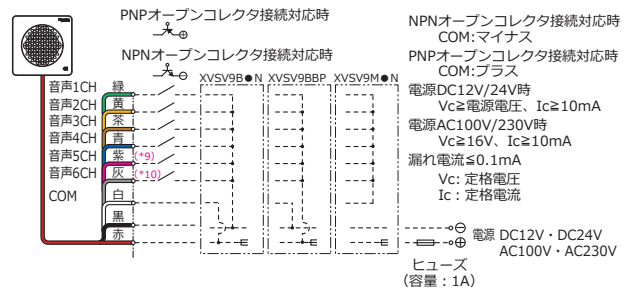
モード	モード1	モード2	モード3	モード4
緑色				
緑	CH1	CH1	CH1	CH1
黄	CH2	CH2	CH2	CH2
茶	CH3	CH3	CH3	CH3
青	CH4	CH4	CH4	CH4
紫	減音	CH5	CH5	CH5
灰	停止	減音	停止	CH6
制御内容	ビット入力時 4チャンネル バイナリ入力時 15チャンネル + 減音 + 停止	ビット入力時 5チャンネル バイナリ入力時 31チャンネル + 減音	ビット入力時 5チャンネル バイナリ入力時 31チャンネル + 停止	ビット入力時 6チャンネル バイナリ入力時 63チャンネル

## 外観寸法図

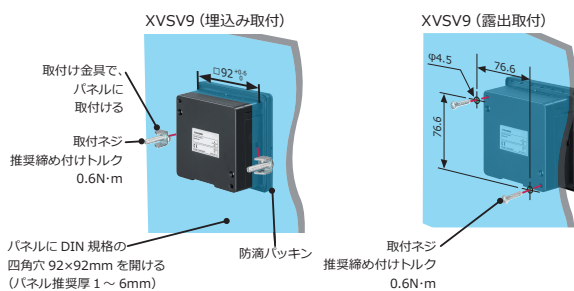


単位[mm]

## 結線図



## 取付寸法図



単位[mm]

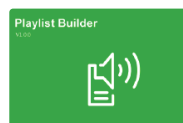
## XVSV9シリーズは、Playlist Builderを使って、コメントを自由に編集できます。

「Playlist Builder」は、音声やメロディなどのMP3ファイルを利用して、パソコンで音声合成警報器のコメントデータを編集できるソフトです。弊社ホームページから無償でダウンロードできます。

<http://www.proface.co.jp/PLB/>

Playlist Builderを使うと、こんなことができます。

- ・チャンネル毎の1~16フレームにMP3ファイルを指定できます。
- ・音声合成警報器の動作モードを設定できます。
- ・警報器に「信号入力モード」「動作モード」「減音値」など、様々なパラメータも指定できます。



〈コメント録音フローチャート〉

1. ソフトウェアをダウンロードしてパソコンにインストールする。
2. 新しいプレイリストを作る、または、以前に保存したプレイリストを開く。
3. フレーム毎に、録音する音を選ぶ。
4. チャンネル数や動作モード・コメントの繰り返し回数・フレーム間隔などを設定する。
5. 「プレイリスト」を保存する。
6. 「Audio」フォルダと、「プレイリスト」をSDカードにコピーする。
7. SDカードを電源が入った状態の警報器に挿入し、ファイルをインポートする。
8. 「ビー」というアラート音が鳴れば転送完了です。SDカードを取り出してからご使用ください。

(\*8)出力チャンネルの最大数は、チャンネル動作モードの設定により異なります。(\*9)チャンネル動作モード1:減音 (\*10)チャンネル動作モード1または3:停止 2:減音